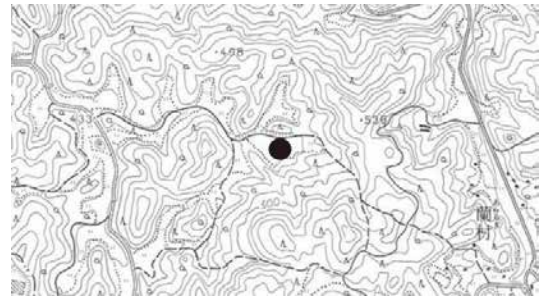


つるがいけ
鶴ヶ池遺跡

所在地 豊田市下山田代町鶴ヶ池地内
(北緯 35 度 01 分 38 秒
東経 137 度 19 分 39 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設
用地造成事業



調査地点 (国土地理院 1/2.5 万地形図「東大沼」)

調査期間 平成 24 年 7 月～平成 24 年 12 月

調査面積 3,300 m²

担当者 鶴飼雅弘・伊奈和彦・奥野絵美

調査の経過 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う事前調査として、愛知県企業庁より委託を受け実施した。

立地と環境 鶴ヶ池遺跡は旧耕作地に面する尾根上に立地している。現在の標高は海拔約 460～470m 前後である。周辺の遺跡としては、尾根を挟んだ南側に栗狭間遺跡、北西にコヤバ遺跡、北東に孫田遺跡が位置している。

調査の概要 調査地点は、東西に広がる尾根の頂部および北斜面部一帯にかけての部分で、調査面積は 3,300 m²をはかる。調査区を西から A 区(300 m²)、B 区(950 m²)、C 区(2,050 m²)に分割し実施した。調査の結果、縄文時代、中世・近世の遺構を検出したが、主要な時期は縄文時代と中世・近世である。

12A 区 12A 区は尾根の北西端に位置している斜面地であり、現況は植林地である。遺構については、斜面上に北から東へ黒色粘土層の堆積が見られ、この層の堆積前後にピット 2 基、土坑 2 基を検出した。土坑 2 基は土層中またはこれを切る状態で検出され、ピットは土層除去後に検出された。これらの遺構の時期は、ピット中で採取した木炭の AMS 炭素 14 年代測定を行ったところ、暦年代範囲は 8 世紀末～10 世紀末を示し、おおよそ古代にあたる年代値となっている。土坑 2 基についてはいずれも埋土に多量の炭化材を含んでおり、壁面には被熱した痕跡が認められる。このうちの 1 基(071SK)で採取した炭化材の年代測定を行ったところ、暦年代範囲は 15 世紀中頃～17 世紀前半を示し、おおよそ中世～近世にあたる年代値となっている。

12B 区 12B 区は遺跡の中央部にある尾根とその鞍部に位置しており、現況は A 区と同様に植林地である。遺構が見つかった場所は、調査区の北域および南域に広がる尾根上とその鞍部、大きく 2 カ所に分けられる。まず尾根上では、炭焼窯 3 基の他、時期不明の土抗、ピットを検出している。

一方鞍部では、谷地形の底部を中心とした場所で、底面にピットを伴う陥穴 4 基

とその他土坑やピットなどの遺構が見つまっている。陥穴4基は、遺構の深さが約0.5m～1.2m、径は1m前後であり、遺構検出面から直角に近い急な角度で掘り込まれている。遺物は縄文土器や剥片が数点出土しているが、いずれも小片である。

12C区 12C区は遺跡の東端、谷に面した平場に立地している。本遺跡の中で、遺物が最も多く出土した場所である。遺物は縄文土器の他に、弥生土器、灰釉陶器、山茶碗、近世陶磁器など約1,100点が出土した。そのうち多くが縄文時代のもので、縄文早期および中期～後期の土器のほかに、石鏃や石匙等の石器類や剥片が出土した。遺構については多くが時期不明であるものの、調査区中央の平坦地上で縄文時代早期の遺物を多く含む土坑039SK・040SKが見つまっている。この遺構の埋土中で採取した炭化材3点のAMS炭素14年代測定を行ったところ、うち2点が縄文時代中期後葉頃、1点が縄文時代早期後葉頃の暦年代範囲を示す結果となった。また、調査区東端で見つかった小ピットを持つ陥穴025SKについても、縄文時代に属する可能性が高い。他にも近世・近代の遺構として、炭焼窯(001SY・005SY・006SY)が見つかった。このうち001SYは煙道を持つタイプの窯で、戦前に製作されたと思われる。(奥野絵美)

まとめ 本遺跡では、縄文時代の遺構・遺物を多数検出した。特に12C区では、縄文早期から後期にかけての土器・石器が多数出土しており、本遺跡を考察する上で中心的な調査区となっている。ただし、縄文時代の遺構は、遺物を多く含む039SK・040SK以外は陥穴のみである。このことから、この地点は定住した場ではなく、狩猟のためのキャンプサイトではないかと考えられ、今後の検討課題となっている。

また、12A区で検出した071SKは、形状などから中世の火葬施設とも考えられ、今後、出土遺物等から多面的な検討が必要である。(伊奈和彦)



12A区 黒色土検出状況



12A区 071SK断面



12B区 陥穴完掘状況



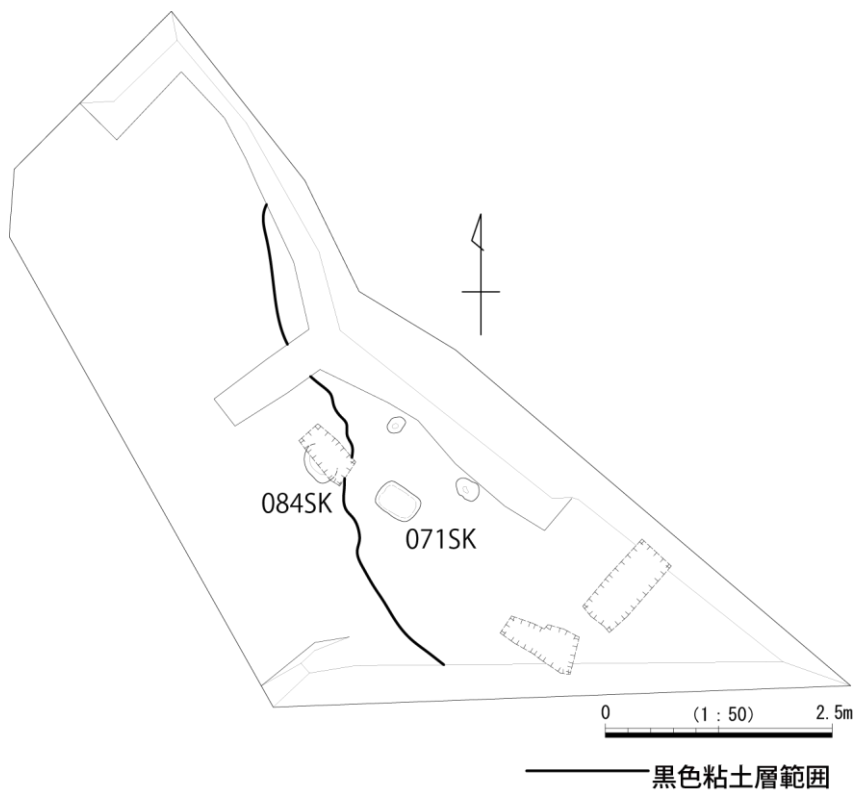
12C区 005SY 完掘状況



12B区 040SK 検出状況



12B区 040SK 遺物出土状況



12A区 遺構図



12B区 遺構図



12C区 遺構図

さらた 皿田遺跡

所在地 豊田市下山田代町・蘭町地内
(北緯 35 度 1 分 29 秒
東経 137 度 19 分 50 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地
造成事業

調査期間 平成 24 年 8 月～平成 24 年 12 月

調査面積 3,200 m²

担当者 鵜飼雅弘・鈴木恵介・小澤健次郎



調査地点(国土地理院 1/2.5 万地形図「東大沼」)

調査の経過 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う調査として、愛知県企業庁より委託を受け実施した。皿田遺跡は、昨年度の範囲確認調査に続き、2 回目の調査である。

立地と環境 皿田遺跡は豊田市西部の下山田代町および蘭町に所在する。これらの地域は東側を国道 301 号線に沿って流れる郡界川、南側を岡崎市保久町に隣接している。標高は約 50～525m である。周辺の遺跡として、代官屋敷遺跡(縄文、中世)がある。

調査の概要 本年度の調査は、調査面積が 3,200 m² である。調査前の現況は、標高約 520～525m の南北に延びる尾根で周辺一帯は杉の植林地である。尾根西側の斜面にはさらに西側に尾根状の張り出し部がある。調査区は尾根の西側を 12A 区と尾根の鞍部から東斜面を 12B 区に分割し実施した。調査の結果、弥生～古墳時代を除く、縄文時代～近代の遺構・遺物を検出したが、主要な時期は 12A 区では中世で、12B 区では縄文時代である。

12A 区 12A 区は尾根西側の尾根状に張り出した急斜面の 1,100 m² (南北約 24m、東西約 45m) が調査範囲である。最も急な斜面で約 18m の幅で約 6m の標高差がある。尾根の斜面と張り出し部の付け根にあたる所に炭焼窯を 2 基検出した(001～002SY)。炭焼窯に関連する遺構として、焚き口周辺から土坑を検出した。さらに焚き口より前庭部は平坦に地形を整形していることが判明した。また、天井材を窯内部より検出した(002SY)。この炭焼窯の西側には、黒褐色土が斜面上部から下部にかけて帯状に堆積しており、そこから山茶碗などが出土した。この土が斜面下方へ続き谷間に堆積している。遺構は検出されなかった。また、煙道のない伏焼タイ

プの炭焼窯は張り出し部の頂部に近い箇所などから検出した。遺物としては、他に須恵器の甕、灰釉陶器の碗、陶器の内耳鍋や土師質の鍋の破片が出土しているが、遺構に伴っていない。

12B区 12B区は尾根の鞍部から東斜面の2,100 m²（南北約70m、東西約30m）が調査範囲である。尾根南側の標高は約525m、北側は約515mでなだらかに北方向に下っている。尾根鞍部には鶴ヶ池、孫田、丸山方面への道の痕跡があった。尾根の鞍部から東側に関しては、斜面は緩やかであるが、北東部から急となり、特に北東部角は最も急で標高差が約30mの範囲で約8mある。この北東部の斜面に調査区で最も大きな炭焼窯（直径約2.3m）を検出した(014SY)。この炭焼窯の灰原下にも炭焼窯を検出した(100SY)。また、北東部の鞍部で検出された炭焼窯は伏焼タイプにしては大きいサイズ（直径約3m）であった。12B区では合計20基の炭焼窯を検出した。他に遺構としては土坑状、柱穴状の穴や窪みを多く検出したが、いずれも遺物を伴っていないことや形状などから、植物の根跡や風倒木跡であるとみられる。遺物としては、出土数の割合からみると縄文土器が多く出土した。縄文土器の時期区分は主に中期であるとみられている。黒曜石やチャートの剥片石器も出土している。

まとめ 縄文時代の遺物は12B区を中心に出土した。また、剥片石器（黒曜石・チャート）も検出した。これらの一部は範囲確認調査で確認された黒色土周辺の土層から検出された。黒色土の範囲は、12B区中央ベルトから北方向への広がりや今回の調査で確認できたが、遺構は検出できなかった。古代～中世の遺物（須恵器・灰釉陶器・山茶碗など）を12A区で検出した。これらの一部が出土した黒褐色土は範囲確認調査でも平安末期の灰釉陶器が出土している。また、中世～近世にかかる遺物（内耳鍋、鍋）も同様に12A区で検出した。一方で12A区では縄文土器が12B区では中世の遺物が出土していない。近代では12A、12B区両調査区で炭焼窯をあわせて24基確認できた。そのうちの22基が伏焼タイプ（煙道なし）であった。煙道のあるタイプを比較すると基本的な構造や形態はほぼ一致しているが、12A区では粘土層や地山（地盤）の花崗岩を削り窯壁に礫を貼り構築していた。一方12B区では一旦粘土層を削り窯壁として使用した後、新たに粘土ブロックを貼り再構築していた。床面にも粘土を敷いていたことは地山を直接床面としていた12A区とは異なっていた。遺物は出土していない。今回の調査では遺物と遺構との関連を見いだす

ことはできなかった。ただ、遺物の出土状況や南側に平場があること等は遺構の存在する可能性を示唆している。 (小澤健次郎)



12A区 調査区全景



12A区 炭焼窯天井部材検出状況(002SY)



12A区 須恵器甕出土状況



12B区 調査区全景



12B区 炭焼窯検出状況(100SY)



12B区 縄文土器出土状況(021SK内)

遺構配置図

